

終了報告 ⅢB-1 福井県における腸管出血性大腸菌分離株のStxサブタイピング解析

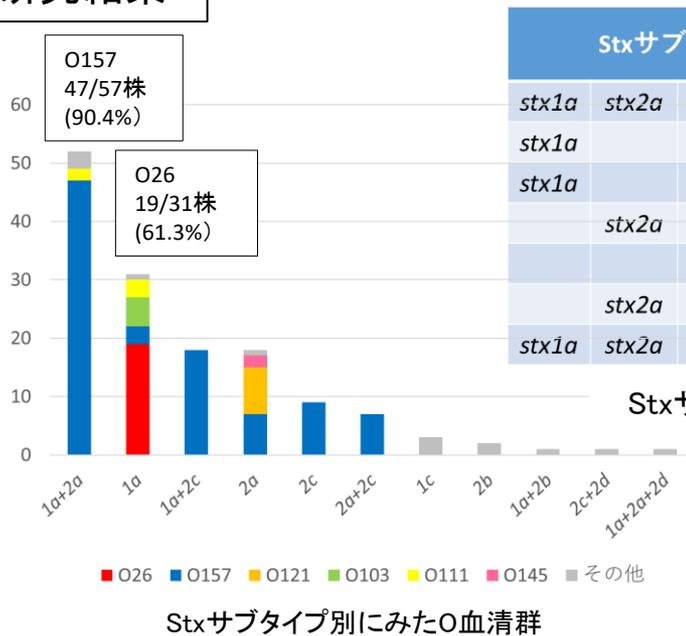
(H30～R2)

保健衛生部 細菌・ウイルス研究グループ 横山 孝治

研究目的

StxサブタイピングPCR法を確立する。福井県で分離されたEHEC株について、サブタイプを決定し、流行動向を調査するとともに、Stxサブタイプと菌株の性状等の関連性について解析する。

研究結果



Stxサブタイプ			血便有 (株)	総数 (株)	血便発症率 (%)
stx1a	stx2a		39	52	75.0
stx1a			11	31	35.5
stx1a		stx2c	10	18	55.6
	stx2a		9	18	50.0
		stx2c	2	9	22.2
	stx2a	stx2c	6	7	85.7
stx1a	stx2a	stx2d	1	1	100.0

Stxサブタイプ別にみた血便発症率

血便の発症率が比較的高い *stx1a*、*stx2a*、*stx2c*について、 χ^2 検定を実施
 →*stx2a* で有意差あり
 $p(2a) < 0.0001$
 ↓
 血便の発症に*stx2a*が関与していることが示唆された

全143株 (H24-R元) のうち *stx1a+stx2a* が 52株 (36.4%) と最も多く検出
 そのうち47株 (90.4%) がO157株だった

<薬剤別にみた耐性率>

治療薬とされるFOMの耐性菌が1株確認された

<病原遺伝子検出状況>

eae が132株 (92.3%) と高い陽性率であった

成果等

- ・福井県内におけるStxサブタイプの流行動向が明らかとなり、把握することができた
- ・当センターでの検査手技の確立につながった
- ・得られた知見、結果を学会や所報等を通じて医療機関等への情報発信を予定